

教科名		保 健	教科書調査報告
発行者名		東京書籍	大日本図書
調査の観点			
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に直接書き込みながら学習を進められるようになっており、教科書内の写真や図、説明等と関連付けながら理解できるよう工夫されている。 「まとめる・生かす」という項目で、学習内容を穴埋め式で振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に自分の考えなどを書き入れる箇所を多く設けている。 児童が見通しをもって学習に取り組めるよう巻頭で学習内容のポイントを具体的に示したり、「学年のまとめ」で既習の内容の振り返りの問題を示したりするなど、学習内容を確実に理解できるよう工夫されている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 各単元において学習の進め方が統一された4ステップで提示されている。 授業の終わりに「深める・伝える」という項目があり、学んだことをどのように生かしていくかという視点で考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の場面では、思考を促す問いの文に加え、写真や図、データ等が示されていることで、課題に対して考えやすくなっている。 授業の終わりに「活かそう」という項目があり、学んだことをどのように生かすことができるのかという視点で考えることができる。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「コンピュータの使用と健康」「インターネットによる犯罪被害」等、今日的な課題についての記載がある。 各単元内のページにある二次元コードを読み取ることで、動画を視聴することができる。 不安や悩みがあるときの心の静め方について、実施方法を二次元コードで確認できるようにしたり、「24時間子どもSOSダイヤル」「チャイルドライン」など、不安や悩みがあるときの相談窓口をパラリンピアン事例も紹介しながら記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> パソコンやスマートフォンの誤った使い方が健康に与える悪影響について取り上げられている。 近年活躍されている芸能人やスポーツ選手、医師などのエピソードを保健の視点と関連させながら紹介されている。 「24時間子どもSOSダイヤル」「チャイルドライン」などの電話番号が掲載されており、SOSの出し方に関する具体的な記載がなされている。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「自然災害によるけがの防止」では、「避難所で小学生ができることを考えよう」と他者の安全に配慮することについて触れられている。「けがの予防」では、多様な人々がけがをしらないような工夫としてユニバーサルデザインが取り上げられ、多様性についても触れられている。 登場人物については、男女、外国人、障がい者などを配置し、共生社会であるということを強調している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「だれもが健康であるために」という項目で、SDGsについての解説とウェブサイトで詳しく調べることができるようになっている。 巻末で、3年から6年までに学んだ保健の学習内容とSDGsとの関わりについて触れられ、「自分にできること」や「日本や世界での取組」が紹介されている。
B 使用上の 便宜について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方のステップ1「気付く・見付ける」で、学習内容に関連する事柄について比較したり、自分に当てはめて考えたりすることで、児童自らが課題に気づき、主体的に学習が進められるようになっている。 健康問題を自分事として捉え、課題解決のために児童たち自身で調べたり話し合いをしたり、表現をしたりするなど、主体的に学習を進めやすいような工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方「見つける」では、自分の生活を振り返ることにより、自分事として課題解決に向けて取り組めるようになっている。 グループで話し合いながら学習を進める内容構成であるとともに、巻頭の「折りこみ」を活用して、主体的に学習が進められるよう工夫されている。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「運動を楽しく続けよう」の資料に、遊び場が少なくてもできる様々な運動例が示されている。 「地域の保健活動」の事例の中に多摩市近隣の健康づくりに関する写真を活用したり、「自分の健康や安全についてふり返る項目」を記載する箇所を設けたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生活の中の運動」の資料に、遊び場が少なくてもできる様々な運動例が示されている。 「学校や地域で起こるけがの防止」の資料として、「多摩市立小学校に設置されたひなん場所を示すかん板」の記載とともに、写真で紹介されている。

教科名		保 健	教科書調査報告
発行者名		大修館書店	文教社
調査の観点			
A 内容 について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「課題把握(見通し)→課題解決(話し合い、考える、調べる)→まとめ」という学習の流れが分かりやすく提示されている。 「学習をふり返ってみよう」で穴埋めをしながら既習の内容の確認をする工夫があるなど、教科書に記述する箇所を多く設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元で得られた知識や技能を生かし、自分の生活と比べて振り返り、学習したことをさらに深めるという2ステップまたは3ステップで単元が構成されている。 児童が視覚的に理解できるよう、同一の登場人物が、各単元の理解すべき内容やまとめ、学習のポイント等をおさえる構成の工夫がある。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 単元の始めに自分の生活と結び付けて課題把握ができるようにするとともに、3つのステップで学習を進めることができるよう紙面が工夫されている。 資料などから気が付いたことや、気を付けたいことを書く欄が設けられており、自分の考えを整理したり、友達の考えを聞いたりすることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の終わりに「もう一歩先の自分へ」という項目があり、ただ学ぶだけではなく、これからの自分の生活にどのように結び付けるか、自分の考えを記入する欄がある。 「Complete」「ちよっとまった!」の項目を各単元に設け、児童の思考を深めさせる工夫がある。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォン、タブレットに関わる内容について分かりやすく記されている。 「子どもの人権110番」「よりそいホットライン」などの電話番号が掲載されており、SOSの出し方に関する具体的な記載がある。 近年活躍されている芸能人やスポーツ選手、医師などのエピソードが保健の視点を踏まえながら紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「24時間子どもSOSダイヤル」「チャイルドライン」の電話番号が掲載されており、SOSの出し方に関する具体的な記載がある。 近年活躍されている芸能人やスポーツ選手、医師などのエピソードが保健の視点を踏まえながら紹介されている。 スマートフォンやSNSでのトラブル、自転車の事故防止に関する内容について触れている。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> 違いを認め合うこと、共に助け合っていくこと、「障害者スポーツについて」などSDGsの視点について触れられている。 すべての学年の巻末に「より暮らしやすい社会を目指して」という自然環境や共助についての資料があり、SDGsとして「質の高い教育をみんなに」の記述がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 5・6年では、災害についての学習で「自助」「共助」「公助」という言葉が明示されている。 「思春期の心の変化」の単元において、SDGsの一つである「5 ジェンダー平等を実現しよう」との関わりについて触れられている。
B 使用上の 便宜について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭において、なぜ保健の学習を行うかについて、2ページにわたり詳しく記載している。 単元の導入で自分の生活を振り返る発問が設定してある。「保健の学び方」「学びを広げる・深める・ふり返る」という学びのサイクルを紹介することで、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、単元の導入で学習課題について考えたり、話し合ったりすることから授業が始まるようになっている。 保健の学習のまとめに「わたしのいきいき宣言」「わたしのすくすくせん言」等の宣言を記入する欄が設定されており、今までの学習を自分なりにどのようにしていくのか考え、発表させる工夫がある。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「スマートフォン・タブレットと目のけんこう」の記載があり、目の健康を守るためのタブレットの適切な使い方を示されている。 近隣市の保健所の取り組みに関する写真記載がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多摩市や多摩市近隣の事例や写真の活用はないが、生活習慣、不安や悩みへの対処、運動などを取り上げている。 「わたしのけんこうせん言」を自分の言葉で記載する欄を設けている。

教科名		保 健	教科書調査報告
発行者名		光文書院	Gakken
調査の観点			
A 内容について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入部分に「見つけよう」の欄を設けて、既習事項を生かして気付いたこと等を記載できるようにしたり、単元の最後にあたる「学習のまとめ」では、学習内容を確認する欄を設けたりするなど、基礎・基本の確実な定着に向けた構成となっている。 ・各単元で「学んだことを生かそう」という記述項目を設定し、学習習慣の定着を図れるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書への記入の方法が多様な形で取り入れられている。単元のまとめ「ふり返る・伝える・つなぐ」では、既習事項の確認や自分が学習したことを誰かに伝えるように書くことになっており、自分の学習を振り返ることができるようになっている。 ・記述する箇所については、二次元コードを読み取ることで、詳しく記入することができるようになっている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元によって異なるが、「見つける、知る、生かす」という3ステップの学習の進め方が提示されている。 ・毎時間「学んだことを生かそう」という項目があり、ただ学ぶだけではなく、自分の生かせることを考える場面が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふり返る、経験をもとに話し合う、生かす」等の3ステップの学習の進め方が提示されている。 ・毎時間に複数回、自分の考えや意見を書く欄が設定されており、自分の考えを深めたり、人に伝えたりすることができるようになっている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ選手や芸能人、作家などが保健の大切さを伝えているページが設定されている。 ・情報化社会の発展や生活習慣の乱れなど、社会状況の変化に応じた内容になっている。 ・「よりそいホットライン」の電話番号が掲載されており、SOSの出し方に関する具体的な方法が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症、多様性、SDGs、いじめなど、現代的な課題が記載されている。 ・SNSのトラブルに関する内容(画像や動画の取り扱い、書き込み)が詳しく記載されている。 ・イラストと写真の両方を取り入れ、視覚的に理解できるよう工夫されている。様々なスポーツの紹介を通してバリアフリーに対する意識が高まるようになっている。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゴール3 すべての人に健康と福祉を」でSDGsや共生社会について触れられ、二次元コードでSDGsの情報を詳しく調べられるようになっている。 ・「だれ一人取り残さない」のキーワードにも触れ、できることを考えて、「自分自身が一つずつ実行できることを記載する欄」が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に、共生の概念を踏まえて健康に生きられる理想的な社会の在り方(ヘルスプロモーション)について記載されている。 ・保健の学習や健康への実践が周りの人や世界中の人の健康につながっていることを理解させる工夫がある。
B 使用上の便宜について	(1)児童が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の導入で自分の経験を振り返り、学習課題に主体的に取り組めるような工夫がされている。 ・写真や図、吹き出しを活用して問題場면을想起させ、学習課題が自分の健康とつながるような工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入で、自分の経験を振り返ったり、問題場면을想起させたりして、学習課題が自分の健康とつながるよう工夫されている。 ・毎時間、自分の考えや友達と話し合った内容を記載する欄があり、多様な考え方を引き出す工夫がある。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域での危険を防ぐ工夫」や「食中毒の予防」において、多摩市に比較的近い市の写真を活用している。 ・5・6年の巻末において、「心と体の健康、けがの防止、病気の予防等とSDGsのつながり」について考えさせる紙面構成となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭で保健の学習とSDGsとの関連を取り上げ、ESDに関連した内容が記載されている。 ・資料で安全・安心への配慮ある外遊びを取り上げるなど、身体面だけでなく、だれもが幸せを実感できることを目指した「健幸都市」を掲げる多摩市に関連した内容が記載されている。